

杖道の普及に、更なる力を

全日本剣道連盟に杖道が加入されたのは昭和31年、全剣連杖道制定形が制定されたのが昭和43年のことである。この制定形は、今より約40年前、夢想権之助勝吉により創始された神道夢想流杖術の数多い形の中から、基本ならびに形を12本選んだものであった。

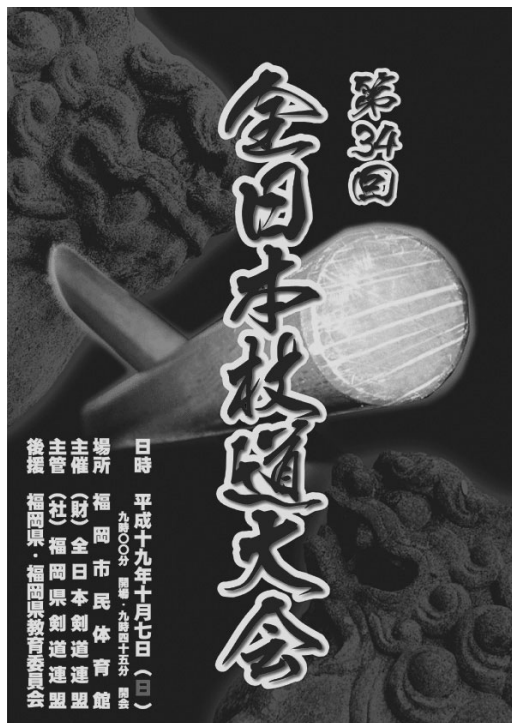
その夢想権之助勝吉と縁のある、竈門神社（太宰府市）を有する、福岡県で10月7日、全日本杖道大会が参加者50名により盛会に行われた。福岡県では平成7年大会以来12年ぶりの開催である。

杖道の普及面は、剣道・居合道に比べては、全国的に未だ低いのが現状だが、全剣連は講師派遣事業を含め、地区ならびに中央講習会を通じて少しずつだが、その普及・振興に寄与している。

今度の福岡大会では、地元の水止成徳杖道範士（全剣連審議員）が、今大会審判員でもある北海道の安丸 進杖道教士七段にポスター作成を依頼。安丸氏もそれを快諾、自らパソコンで制作し、9月の宮城県での杖道地区講習会会場に掲示するなど、大会を大いに盛り上げた。このポスターが全剣連事務局にも届けられ、杖と太刀が交差される瞬間の構図が素晴らしく迫力を感じ、私は驚かされた。作者は、背景の一对の狛犬（口

を開けたものと閉じたもの）は、神道夢想流杖術・最後の技「阿吽」を表現したとのこと。

全剣連設立40周年記念で、剣道普及ポスターの一般公募を行い、金子あいさんの作品、ゾウ君とネズミちゃんによる「みんなで剣道やろうよ」が、最優秀受賞作品となり、各都道府県剣道連盟をは



第34回全日本杖道大会ポスター
神道夢想流杖術の最終の技名は「阿吽」である。

和文化教育による、中学生に日本の伝統文化の理解と実践を含む文化学習を行った」との記事を目にした。「杖道の学習指導は週1回実施」と掲載されており、純真無垢な少年が、杖を持つての体験は、さぞ戸惑う一面もあったことと推察するのであるが、この記事には杖道体験での感想文が書かれてお

り、その内容は次の通り。

「初めて杖を手にした時は、ワクワクする気持ちとこれから始まる学習へのドキドキでいっぱいでした。（略）杖道は決して相手を傷つけません。相手を尊敬しながらも真剣勝負といった感じですが、杖道を学習しているうちに、本当の尊敬とは何だろうかなあ」と思

うようになりました。ただ敬語で話す、失礼のないようにするだけではないと思います。相手の技を研究し、それに一歩でも近づこうとする姿勢も尊敬のかなと思いましたが。相手の技や動きに集中していると『本当の尊敬がもつとある』ように思います。杖道を通して、尊敬を一つでも多く見つけられたらいいなと思っています」

中学生の感想文です。なんと広角の視野を有した感想かと驚き、今回の杖道大会ポスターの図案と相通じるものを感じました。

剣道も良い、居合道も良い、そして杖道も素晴らしいです。この「阿吽」の呼吸による新鮮なポスター制作を契機に、杖道の普及が加速し、さらに全国に振興していくことを祈念しております。

（財）全剣連事務局 川野雅英

*安丸氏注 ①日本の「伝統」、日本の「心」を表す事、②「杖道」とは何かが見た者に伝わる事、をコンセプトにしました。背景の右下「阿形」、左上「吽形」の狛犬は杖道発祥の地、福岡は竈門神社に置かれた阿吽の狛犬です。「阿吽」とは言葉交えず互いの信頼を表す言葉で阿吽の呼吸、阿吽の仲と表します。まさに、日本人ならではの「心」ではないかと思えます。そして杖道（神道夢想流杖術）仕合口の最終の技名は「阿吽」です。杖と太刀の合わせは杖の力強さを攻めを表し、又、太刀と杖の結びを表してみました。